

清水町 町名変更に関する町民説明会資料 R8.02

人口減少・産業構造の変化・地域間競争の激化など、私たちを取り巻く環境は近年、これまでにないスピードで変化しています。観光・移住・企業誘致など、様々な分野で全国的な競争が進む中で、自治体の「名前」が検索や情報発信において果たす役割は以前よりも大きくなり、インターネット検索、旅行予約サイト、SNSなどの分野では、地域名称の分かりやすさ・認知度が、実際に選ばれる確率へ直結するようになってきています。

こうした外部環境の変化を踏まえ、本町としても未来に向けて、総合計画の目標達成に向けた観光振興や関係人口づくり、企業誘致、人材確保といった各分野で、中長期的な取り組みを展開していく必要があると考えています。

その中長期的な取り組みの一つとして、町名を「清水町」から「十勝清水町」に変更することを提案させていただいております。

「十勝」という名称は、道内外で一定の認知度やイメージを持っており、この名前を正式名称に組み込むことで、「場所がイメージしやすくなる」、「地図や検索、予約サイトなどで“十勝”と結びつきやすくなる」といった意味で、ブランド力向上につながる可能性はあると考えています。

町名変更については、今後、住民投票により町民の皆様のご判断をいただきたいと考えております。その判断の材料として、この資料をご参考としていただければと思います。



清水町の名前の由来や、名称の変遷を教えてください。

「清水」は、アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味する「ペケレベツ」を意識したものです。

明治32年に開設した「ペケレベツ駅通」の取扱人である村山和十郎は、人舞村と屈足村を直轄していましたが、駅名と一致せず行政・経済的に不便なため、昭和2年9月25日に「清水村」と改めました。

昭和11年1月1日より町制が施行され「清水町」となり、その後、昭和31年に「御影村」と合併し、現在の清水町となりました。



なぜ、まちの名前を変えようとしているの？

同じ名前の自治体や地域が全国にあることで、検索しても別の地域が先に表示されたり、町の場所が伝わりにくい場面があるためです。

その背景には「もっと、清水町のことを知ってもらいたい」という思いがあります。

ブランド力がある「十勝」というイメージを名前に反映できれば、町の魅力がより伝わりやすくなるのではないかと考えています。

そういった考えが、町名変更を検討するきっかけになっています。



まちの名前を変えることで、どのような未来を描いているの？

町の存在が広く知られ、魅力や地元産品の価値が自然と伝わりやすくなる未来を描いています。

その結果、ふるさと納税や観光、地元産品のPRチャンスが増え、ブランド力や発信力の向上につながると考えています。

まちの名前をきっかけに、「どんな町なんだろう？」と多くの人に興味を持ってもらえる。そしてそこから、企業誘致や町の利益を増やし、みなさんへ還元して再活性化につなげたいという前向きな思いがあります。

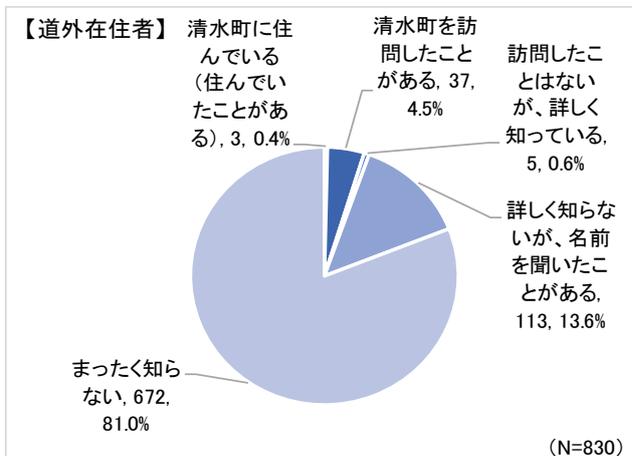
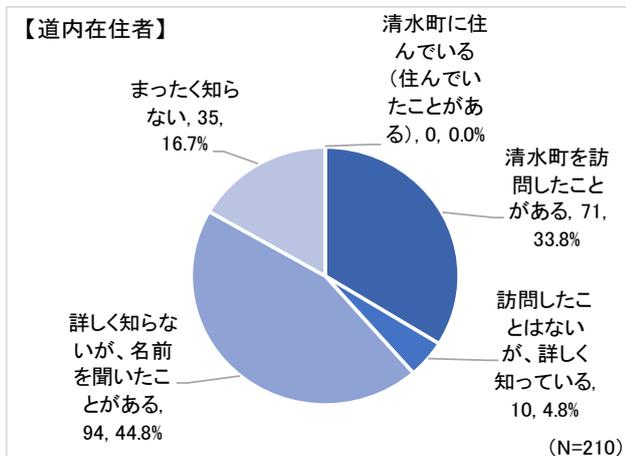


私たちの住む清水町は、全国でどのくらい認知されているの？

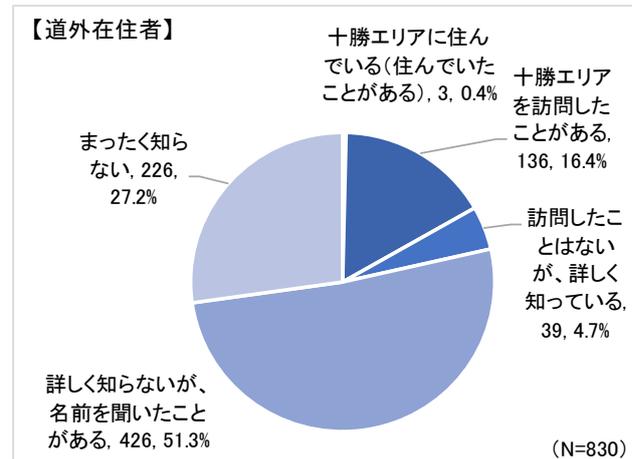
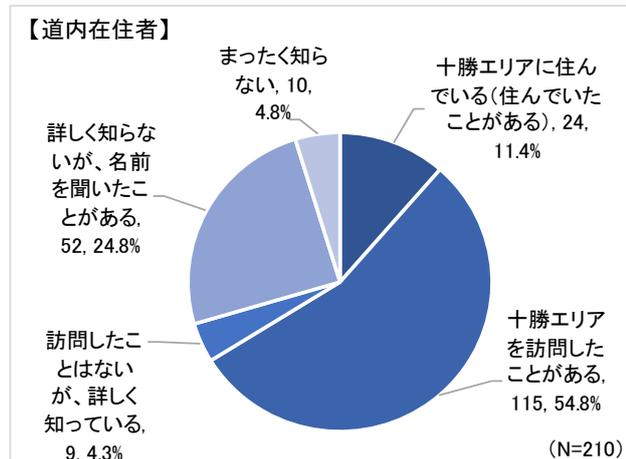
民間企業のインターネットアンケートサービスを活用し、道外在住者を対象に清水町に関する認知度について調査したところ、81.0%が「まったく知らない」と回答しています。「詳しく知らないが名前を聞いたことがある」が13.6%で、ほとんどの人が清水町を知らない状況です。

一方、十勝エリアについての質問では、51.3%が「詳しくは知らないが、名前を聞いたことがある」と回答しています。

「北海道清水町」を訪問したことがありますか？知っていますか？



北海道の十勝エリア(十勝総合振興局管内)を訪問したことがありますか？





全国にある、「清水町」「清水」という地区を教えてください。

「清水町」という町は、本町のほかに、静岡県駿東郡清水町があります。

「清水」とつく地区で最も有名なのは、静岡県の「静岡市清水区」（旧清水市）でしょう。サッカーの街、清水の次郎長、三保の松原、テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」の舞台などで、知られています。

全国には、「清水町」という名称の住所表記はたくさんあります。下の地図に、主な地区とその地区の人口を整理しました。

図表 「清水町」「清水」という名称の地区がある主な自治体と地区の人口



資料：令和2年度国勢調査（総務省）

※京都市は各区の「清水町」と「〇〇清水町」の合計人数

※熊本市北区は「清水本町」「清水亀井町」「清水東町」の合計人数



町名変更は、今すぐに行う必要があるのですか？時間をかけて議論した方が、良いのではないですか？

清水町では、未来に向けて、総合計画の目標達成に向けた観光振興や関係人口づくり、企業誘致、人材確保といった各分野で、中長期的な取り組みを展開しています。

その際に、町の名称はすべての施策の“基盤”となる要素であり、これからの5年～数十年という単位で行う町づくりにおいて、名称が途中で変わることは、PR・投資・情報整備において少なからず影響を及ぼします。そのようなことから考えると、名称の在り方については、できるだけ早い段階で方向性を整理しておく必要があると判断しました。

一方で、町名変更は町長の一存で決めるものではありません。そのため、情報提供の期間の確保や説明会によるご意見の聴取、町民の皆さまに判断いただく住民投票の実施といった一連のプロセスを事前に整理し、スケジュールとしてお示しして進めています。「結論ありき」ではなく、未来の清水町を見据えたまちづくりのために、早めに議論をスタートしたという位置づけです。



現在もホームページ等で「十勝清水町」を愛称として活用しています。多額の公費を投じて正式名称を変更する理由は何ですか？

「愛称としての利用」のままでは、媒体によって「清水町」「十勝清水町」「北海道清水町」と表記が分かれることや、検索や地図上で「十勝」と結びつかない場合があることなど、名称の統一性・認知性の面で一定の限界があります。

正式名称が「十勝清水町」となった場合には、住所・登記等の表記や公共施設名称、地図・ナビゲーション、観光・予約サイト上の表記、全国メディア表記などが一貫して同じ名称で統一されるようになります。そうすれば、愛称と正式名称が統一され認知度が向上すると考えています。

一方、町名変更に伴って、表示の変更やシステム改修費用、住民・事業者の皆さまや関係者への周知など、公費の支出と皆様のご負担が発生します。

長期的に見た効果、発生する費用や負担、将来世代への影響などを総合的に比較し、「町として投資に見合う判断なのか」という視点で、慎重に検討しています。



「清水町」という名に愛着があるのですが。

町名変更は、決して現在の「清水町」という名前や、町民の皆さまが積み重ねてこられた歴史や誇りを否定するものではありません。

むしろ、その歩みを大切に受け継ぎながら、将来世代がこの町で暮らし続けられるようにするために、「清水」という名称を残すことを前提として検討しているものです。

また、「十勝清水」という呼び方は突然生まれたものではなく、すでに JR や JA、道東道インターチェンジなどで使われており、町内外で自然に認識されてきた名称でもあります。

町名変更は全く新しい名称を作るのではなく、すでに広く使われてきた「十勝清水」という名称を正式な町名として統一し、分かりやすく発信していくためのものです。



周辺自治体や町内の団体の了解は得ているのですか？

「十勝」の名称を自治体名につけることは、十勝管内の首長の皆様に経過や思いを伝えております。また、町内の商工会、観光協会、農協の役員の方々にもお話しさせていただいております。



町名変更の決定に、私たち町民の意向は反映されますか？

町名変更について、町民の皆さんの意思を問うための住民投票の実施を検討しています。住民投票の対象は、選挙権のある 18 歳以上の町民を想定し、早ければ令和 8 年 5 月頃に実施できればと考えています。

住民投票の結果は尊重いたします。町名変更への賛成が過半数を上回れば、「十勝清水町」への変更に向けた手続きを進めますし、反対が過半数を上回れば変更しません。



住民アンケートを行わず、住民投票を実施する理由は何ですか？

今回の町名変更の議論にあたっては、町民の皆さまのお声を多面的に伺うことが重要と考えてきました。そのため、まちづくり懇談会、個別のご意見・ご提案、町議会での議論など、いくつもの機会を通じて、幅広くご意見を頂戴してきました。

住民アンケートは、大切な意見把握の手段ではありますが、回答者層の偏りや設問内容による印象の影響、結果のみが一人歩きするリスクなどが避けられません。また、住民投票の前段階で、「賛成か反対か」という形式のアンケートで賛否を数値化すると、その結果だけが強く意識され、町民同士の思いや考えが、必要以上に対立的に受け止められてしまう恐れがあると判断いたしました。

アンケートで“仮の結論”を出すのではなく、できる限り丁寧に情報提供と対話を重ねたうえで、正式な住民投票を実施し町民の皆さまに最終判断いただくという手順が、より公正で責任ある進め方だと考えております。

なお、住民投票の経費として 500 万円程度を見込んでいます。



合併以外で、自治体名称を変更した事例はあるのですか？

市町村合併以外の自治体名称変更した事例は少なく、最新の事例は、2019 年（令和元年）5 月 1 日に、兵庫県の「篠山市」が「丹波篠山市」に変更した事例があります。隣接する「丹波市」との混同を避けることや、特産品である「丹波黒大豆」の産地であることを明確にすることなどが変更理由となっています。

北海道内では、1990 年（平成 2 年）9 月 30 日に、「東利尻町」から「利尻富士町」に変更した事例があります。町の知名度向上による活性化と、親しみと誇りの持てる町への発展を図るため、利尻島のシンボルである名峰「利尻富士」の名称を冠しました。

町名変更が決まった場合・・・



どういった住所になるのですか？

北海道上川郡十勝清水町となります。その後続く住所表記は、現在と同一です。町役場の住所であれば、「北海道上川郡十勝清水町南 4 条 2 丁目 2 番地」となります。



いつから町名が変わるのですか？

令和 8 年 10 月の変更を目指しておりましたが、関係省庁への手続きや行政システムの変更に時間を要することが判明したため、令和 9 年中に変更することにしたいと思います。

町名が変更となる日まで、変更することの周知や町の PR を行い、町の認知度向上に努めます。

具体的な日付が決まりましたら速やかにお知らせいたします。



現在の町旗や町歌も変わるのですか？

町名が「十勝清水町」と変更になっても、現在の町旗・町歌は、これまでどおり継続して使用する方針です。清水町の歴史とともに歩んできた象徴として、今後も大切にしていけます。



私たち住民はどのような手続きを行う必要がありますか？

住民票や戸籍は、行政側で自動的に変更します。マイナンバーカードや自動車運転免許証は、更新時に新しい住所の記載になります。

金融機関への変更手続きは、基本的に必要がありません。その他、クレジットカード、保険や携帯電話などの契約は、それぞれ、相手先の企業への確認が必要となります。また、有価証券（株式）については、証券会社への確認が必要となります。



町内の企業には、どのような手続きや作業が必要になりますか？

事業者の皆様は、名刺、印鑑、封筒、会社案内、ホームページ、看板、商品パッケージなど、ビジネス活動に使用する全ての資材の住所表記を刷新する必要があります。

特に、食品製造業などパッケージの在庫を多く持つ事業者にとって、自治体名称変更に伴うパッケージ変更コストは、大きな負担となります。名称変更決定から、実際の変更までの移行期間を十分に設けることが必要であると認識しています。ただ、既に作成した食品表示資材は、当面の間使用することは認められます。

旧町名で長らく認識されてきた顧客や全国の取引先に対し、町名が変更されたことを説明し、住所変更を周知する手間と費用、新住所へ定款を変更する必要があります。

なお、商標登記については、法律により変更があったとみなされるため申請の必要はありません。

このように、事業者の皆様にはご負担をお掛けすることとなります。町としまして、一定のご支援を行ってまいりたいと思います。



町名変更に伴う町の負担は、こういったものがありますか？

① 初期変更コストの財政的負担

町名変更において、行政は、物理的なインフラと情報インフラの双方で費用が発生します。

住民基本台帳や戸籍システム、固定資産台帳などの各種データベースの改修・更新費用として最大1億円程度、役場・文化センターの銘板改修に100万円程度を見込んでいます。

あわせて、町内の民間事業者が印刷物や看板等の変更に伴い発生する費用に対する補助金として1,000万円程度を想定しております。

その他、道路標識（町管理のみ）などの変更が必要な場合もありますが、財政状況を見ながら必要に応じて逐次変更を行ってまいります。

令和元年に名称変更を行った兵庫県の丹波篠山市では、市のコンピューターシステムの改修や公共施設の銘板改修などで約6,600万円、企業の看板変更など民間への補助が約3,200万円、合計で約9,800万円の支出がありました（いずれも予算ベース）。

② 変更手続きに関する住民対応の負担

名称変更の移行期間中、住民や事業者からの住所変更手続きに関する問い合わせや、公的書類の書き換えサポートなど、行政窓口の業務量の増加が想定されます。

この一時的な業務集中に対応するためには、人員配置の強化などが必要となり、人件費の増加も行政負担となります。



町名が変わったら、どんな効果がありますか？

① 短期的な効果

【認知度向上と広報による広告効果】

北海道内の自治体名称変更は、1990年の利尻富士町（旧東利尻町）以来となり、大きなニュースバリューを持ちます。名称変更の動きは、メディア露出やSNSでの話題性を生み出し、コストをかけずに町の認知度を向上させる効果が期待されます。

ちなみに、新聞紙面に広告を出した場合、数十万円から数百万円が必要となります。

【情報発信の効率化】

同名自治体との競合が解消されることで、インターネット上の情報検索において、「十勝清水町」の情報が正しく表示されるようになり、行政が発信する情報が観光客や移住希望者に確実に届くようになります。情報到達率の向上により、ふるさと納税、移住促進、交流人口の増加など、中長期的な効果に繋がっていきます。

（参考）令和元年に名称変更を行った丹波篠山市が実施した調査では、「丹波篠山」という名称が「丹波篠山市のことを指している」と回答した人の割合が、平成29年の23.1%から令和5年では56.3%へと約2.4倍に増加しています。一方で、「丹波市と丹波篠山市の両方のことを指している」と回答した人の割合は44.7%から15.9%に減少しています。名称変更が、地名の混乱解消に有効であったことが証明されています。

② 中長期的な効果

【地域ブランドの価値向上】

「十勝清水町」への名称変更は、地域の特産品に「十勝ブランド」という付加価値を提供します。インターネット調査の結果からは、消費者は「清水産」や「北海道清水産」よりも「十勝清水産」を選びたい意向が強いことが確認されています（46.1%が「十勝清水産」が良いと回答）。

このブランド効果により、町内の事業者には、販路拡大、商品単価上昇、プロモーション効果の向上が期待できます。特に、十勝のイメージと強く結びついている、乳製品・畜産品（プレミアムアイスクリーム、十勝若牛、牛とろフレークなど）の競争力強化が強く期待されます。

【観光客・来客の増加】

「十勝清水町」への名称変更は、話題性を生み出し、さらに、場所が明確化（回答者の46.9%が「場所がわかりやすくなる」と回答）することによって、旅行者の訪問意欲を高めます。

観光客が増加する効果は、宿泊業、飲食業、土産品店など観光関連産業全体に波及し、地域経済を活性化させます。インターネット調査では、回答者の51.1%が「名称

変更が観光地としての印象に影響を与える」と回答しており、特に女性層や高齢層において観光への期待が高い傾向が見られます。

【中長期的な目標の設定】

町名変更を含む総合的なブランド戦略の成果として、いくつかの指標について中長期に検証する方針です。例えば、次のような指標について、5年程度のスパンで「現状比」での目標値を設けることを検討しています。

- 【目標設定指標の例】
- 観光入込客数
 - ふるさと納税額
 - 体験住宅等の利用件数
 - 移住相談件数
 - 企業からの問い合わせ件数 など

- 【目標値の考え方】
- 無理のない“レンジ目標（幅を持った目標）”を設定する
 - 進捗状況を定期的に公表する
 - 必要に応じて施策そのものを見直す

【経済効果への期待】

経済への影響額として、ふるさと納税として5年間で2億円の増、観光入込客数の増加により1億8千万円程度（総合計画目標値より推計）の波及化効果を期待しております。

経済効果については、その時々々の社会情勢により大きく影響を受けるものであることから、正確な数値を予測することは困難であります。町名変更による経済効果は、今後検証し公表してまいります。

町としては、効果がでるよう各種取組を継続的に検討・実行してまいります。



今後のスケジュールを教えてください。

現時点で想定しているスケジュールは次のとおりです。

- 中学生・高校生対象に意見募集・令和8年3月中予定
- 住民投票条例案議会提出・・・~~令和8年3月~~定例議会予定 令和8年5月以降
- 住民投票の実施・・・~~令和8年5月~~頃予定 令和8年6月以降
- <以下は変更賛同をいただいた場合のスケジュールです。>
- 北海道へ協議書提出・・・住民投票の結果を踏まえて速やかに提出
- 町名変更議案議会提出・・・~~令和8年6月~~定例議会予定 令和8年7月以降
- 北海道へ議決結果報告・・・議決後速やかに
- 北海道から総務省へ通知・・・速やかに
- 総務省にて官報掲載・・・通知書受領後2～3か月後
- 令和9年中に町名を変更



町名変更を未来のまちづくりにどのように活かすのですか。

①町名変更をきっかけに、将来につながるまちづくり

「十勝清水町」への町名変更を一つのきっかけとして、将来にわたって町民の暮らしを守り、安心して住み続けられるまちを次の世代へ引き継ぐ、未来に向けたまちづくりを進めていきたいと考えています。

町名変更は、決して魔法のような解決策ではありません。

「十勝」を付けたからといって、すぐに人口が増えたり、町の経済が急に良くなったりするものではないことは十分理解しています。

町名に「十勝」を冠することで、全国に誇れる農畜産物や、日高山脈襟裳十勝国立公園に指定された美しい自然景観などの魅力がより多くの人目に留まり、清水町を知ってもらい、訪れてもらい、産品を買ってもらい、応援してもらおう可能性を広げることができると考えています。

町名変更を通じて、町の未来を共に考え、共に選んでいくことが、これからのまちづくりの第一歩になると考えています。

②認知度向上による地域経済の活性化と行政サービスの維持

町の認知度が高まることは、企業誘致の推進につながります。企業が進出すれば雇用が生まれ、地域経済が活性化し、そして、それが将来的にスーパーマーケットなど生活に必要な施設の誘致にもつながります。

一方で、少子高齢化と人口減少は全国共通の課題です。本町人口は、20年後に約6,200人、現在の約3分の2になるという推計もあります。人口が減少すれば、税収が減り、行政サービスの維持が難しくなることが想定されます。だからこそ、企業誘致やふるさと納税の拡大などにより、税収や雇用を少しでも確保し、行政サービスを維持していく基盤づくりが必要です。

特に、地場産品の開発と情報発信を進め、「十勝清水町」の名前とともに魅力を届けることで、地域の活性化を図り、将来的にはふるさと納税額で十勝管内ナンバーワンを目指していきます。得られた財源は、子育て支援や福祉、教育など、町民サービスの充実に活用していきます。

③未来の世代へ引き継ぐための選択と、住民による判断

町名変更は、将来の町民の暮らしを支えるための、今の世代から未来の世代への贈り物だと考えています。

今を生きる私たちが、20年後、その先の世代に「この町に住んでよかった」と思ってもらうための一つの選択です。

これは、行政だけで決めるものではありません。

町の将来に関わる重要な選択だからこそ、最も公正で公平な方法である住民投票により、町民の皆様一人ひとりにご判断いただくものです。